

平成25年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立野々市明倫高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1. 研修・研究を通して教員の授業力の向上に努め、生徒の学力の向上を図るとともに、朝学習の充実により、学びに向かう積極性を養い、一人ひとりの可能性を引き出しながら、それぞれの進路目標の実現に向けて主体的に取り組む力を育成する。	① 授業を個々の生徒の実態に即して効果的に実施し、さらに習得した知識を活用できるように思考力・判断力・表現力を高める。	思考力、判断力、表現力を育てる取組を授業に A 十分に取り入れることができた B かなり取り入れることができた C ある程度取り入れることができた D あまり取り入れることができなかった	A+B=92.4% A 41.5% B 50.9%	評価が前期36.5%から最終41.5%へと上昇した。今後は、生徒の思考が深まるよう、発問に工夫を加えるとともに、教室プロジェクター等のICT機器を活用しながら、生徒が考える時間の創出を図りたい。
		1, 2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	1年 D 2年 D	1年 13人(10月)→27人(1月) 2年 23人(10月)→24人(1月) 1, 2年とも偏差値54以上の生徒数は増加傾向ではあるが、目標値には届かなかった。次年度はよりきめ細かい学習指導に教員一丸で取り組んでいきたい。
	② 研修・研究などを通して、授業評価で検証しながら、授業力の向上に努める。	生徒による授業評価で、授業が理解できると感じる生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C 83.4% よくあてはまる 39.6% ほぼあてはまる 43.8%	前期81.3%からさらに上昇したが、B評価には届かなかった。教科別では国語と理科のポイントが過年度より大きく伸びており、教室プロジェクター等のICT機器を活かした授業が効果をあげている。
		授業力の向上のために、研修・研究に A 積極的に取り組むことができた B 概ね取り組むことができた C ある程度取り組むことができた D あまり取り組むことができなかった	A+B=92.4% A 50.9% B 41.5%	前期88.4%から上昇し、A回答も36.5%から大幅にアップした。昨年度からの「高等学校連携による教育力向上推進事業」の取組が定着し、また他校との交流も刺激となり、校内での授業改善への取組が活発化してきた。
	③ 基礎基本の定着を図ることにより、学習意欲を高め、課題の工夫などにより学習時間の増加を図る。	1・2年生で平日の平均家庭学習時間が、120分以上である生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C 63.0% 1年生 57.8% 2年生 68.1%	前期とほぼ同じ割合であった。個別に見ると3時間以上の生徒がいる一方で、全く家庭学習が無い生徒も散見され、クラスによる偏りもある。次年度は予習・復習の内容等を含めて、生徒に具体的な指示をしていく必要がある。
	④ 朝学習の充実により、学びに向かう積極性を身につける。	朝学習に対して、積極的に取り組んだ生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 90.6% よくあてはまる 42.9% ほぼあてはまる 47.7%	前期85.7%からさらに上昇した。今年度は4月の開始時から副担任を監督に当て、教室内に学習する雰囲気を醸成してきたことが奏効している。次年度も学習内容を計画的に配置し、生徒の学ぶ姿勢を育てていきたい。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	⑤ 時期に応じたきめ細かな面接指導により、生徒の進路意識を高め、早期に目標を設定させる。	一人ひとりの生徒の可能性を引き出す面談を A 十分に実施することができた B 概ね実施することができた C ある程度実施することができた D あまり実施することができなかった	A+B=85.0% A 25.0% B 60.0%	目標とする80%を超えることができた。生徒アンケートでも79.2%の生徒が、面談を通して進路目標を持つことができたと回答しており、きめ細かい指導が浸透してきている。次年度はA回答の割合を伸ばしていきたい。
	⑥ 国公立大学への志望者数を増やし、合格者数を増加させる。	個別学力試験に向けた補習や添削指導を効果的に A 十分に実施することができた B 概ね実施することができた C ある程度実施することができた D あまり実施できなかった	A+B=90.6% A 34.0% B 56.6%	昨年の81.4%からさらに上昇した。センター試験後の各教科の計画的な補習や個別添削指導が充実してきており、指導に手応えを感じている教員の意識が見られる。
		国公立大学合格者数が A 65人以上 B 60人以上 C 50人以上 D 50人未満	D 48名（現役44名）	創立以来最高の数字を残した昨年には及ばなかったものの、現役合格者は過去5年間で昨年に次ぐ成績であった。全国的には地元志向の生徒が多いと言われるなか、県外の大学に果敢にチャレンジしていく生徒が目立った。
		難関私大合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満	D 14名	昨年の33名から後退した。国公立志向の生徒と地元私大、短大志望の生徒が多く、県外の難関私大に挑戦する母集団が例年より小さくなったことが一因となっている。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターなどICT機器を活用した授業は非常に効果的であり、生徒の興味・関心が高まるのではないかと。 ・授業評価の項目に、学問の楽しさや学びの深まり、興味・関心の高まりが見て取れるものも入れてはどうか。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業に全ての教員が積極的にチャレンジし、生徒の興味・関心を喚起していくことを通して、授業力の向上をより一層推進していく。 			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2. 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、地域に開かれた、明るく活力ある学校づくりを推進する。	⑦ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	1、2年生の12月の部の加入率が A 87%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	B 86.7%	全体では一昨年82.6%、昨年度84.8%から順調に上昇している。しかし、1年生は入学時と比べて20名近くが途中退部しており、これらの生徒や未加入生徒に対し、適切な対応をしていかなければならない。
		チャレンジする目標を達成できた部の割合が A 50%以上 B 45%以上 C 40%以上 D 40%未満	A 86.7% 運動部 83.3%	春季大会、総体、新人戦を征し選抜大会に出場した男子ソフトボール部を始め、多くの部が目標を達成した。今後はより高い目標を設定して、その実現に向けてチャレンジしていく生徒を育てたい。
	⑧ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久力の向上を図る。	1、2年生の新体力テストで、1回目より向上した生徒の割合が (シャトルラン) A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	D 59.6% 1年生 62.3% 2年生 56.9%	昨年の59.2%からほぼ変わらず。男女別では、男子71.4%の向上率に対し、女子は47.8%に留まっている。女子に対する指導に関して、更なる工夫と改善が必要である。
	⑨ 明倫祭の外部公開を継続し、模擬店数の増加など、イベントの企画について検討を行う。	1日目の入場者数が A 600人以上 B 500人以上 C 450人以上 D 450人未満	B 560名	昨年の450名からさらに上昇した。昨年からは始めた休日開催・外部公開の取組が浸透してきたと思われる。次年度も企画内容をさらに充実させるとともに、保護者や地域に情報を発信していきたい。
	⑩ 「朝の挨拶運動」などのPTA活動に積極的に参加してもらい、生徒の育成をバックアップしてもらう。	学校行事やPTA活動に保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	C 3.1回	「朝の挨拶運動」は1、2年生は各クラス年4回、3年生は年3回の当番日の中から出席を依頼している。次年度は11月の学校公開や今年度試行した大学訪問等の活動により多くの参加者を募りたい。
	⑪ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示など図書委員会活動を通して、地域との連携を図る。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年5回以上 B 年4回 C 年3回 D 年3回未満	A 5回実施	学校マスコット「りんくん」のパペット作成等の取組を加えて、地域の保育所や小学校での読み聞かせ、中学校や市立図書館での図書紹介カードの展示等、積極的に連携活動を展開できた。
学校関係者評価委員会の評価	・本校は地域に非常に貢献している。また、生徒も地域に育てられていることがよくわかる。子どもたちには、勉強や知識だけではなく様々な体験をして、これからの社会を生き抜いていく力を身につけてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・野々市市、県立大学、金沢工業大学等との連携をより一層強化し、本校の教育活動を地域に向けて積極的に発信するとともに、生徒が地域で様々な経験をし、学ぶ機会を提供していく。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3: 節度ある生活習慣の確立と安全意识の高揚に努め、自ら挨拶し、読書に親しみボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	⑫ 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりと A することができた B できなかった	A回答 64.0%	昨年73.6%から大きく下降した。教員アンケートでも昨年28.6%から18.9%へと後退しており、挨拶がしっかりできる生徒の育成に向けて、現行の取組を見直していく必要がある。
	⑬ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール（自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない）を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 93.8% よくあてはまる 63.9% ほぼあてはまる 29.9%	交通ルール遵守への生徒の意識は高いが、自転車等の事故報告件数は昨年13件から18件へと増加しており、自転車左側通行を定めた改正道路交通法の周知徹底を図り、事故件数をゼロに近づけていきたい。
	⑭ 環境にやさしい行動を意識して取り組める生徒の育成を図る。	学校版環境 ISO 意識調査で節電・節水に心がけている生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 79.2% よくあてはまる 27.2% ほぼあてはまる 52.0%	昨年58.5%から大きく上昇した。教室移動時の消灯や晴天時の窓側消灯への意識が根付いてきている。次年度はA回答の割合を増やしていきたい。
	⑮ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	生徒の変化に対して A 素早く対処し、解決に至った B 素早く察知し、対応することができた C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+B=98.1% A 54.7% B 43.4%	昨年89.3%から上昇した。いじめや事故等への対応の取組についても前年よりポイントを上げており、安心・安全な学校づくりが進んでいる。次年度も継続して取り組んでいきたい。
	⑯ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	ボランティア活動に、 A 年5回以上参加した B 年3回以上参加した C 年2回以上参加した D 年2回未満であった	A+B=14.9% A 6.1% B 8.8%	昨年12.0%からわずかに上昇した。「じょんからの里マラソン」（参加100名）や「野々市の市」（同200名）など地域で開催された各種のイベントに生徒会を中心に積極的に参加した。
	⑰ 各学年団と連携し、生徒に読書に親しむ習慣を身につけさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 9.0冊以上 B 8.0冊以上 C 7.0冊以上 D 7.0冊未満	D 5.8冊	昨年の平均7冊から後退した。本年度は1年生の朝学習で読書活動に取り組み、各自が新書を3冊以上購入した結果、図書貸し出し数の伸び悩みにつながったと思われる。
学校関係者評価委員会の評価	・ボランティアのニーズに関する地域の情報が学校に届いているのかが不明である。地域には高校生にふさわしいボランティアがあると思うので、学校と地域の連絡を密にすることが大切である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・地域のボランティア活動に関する情報を収集・整理し、生徒の積極的、計画的な参加を促す。 ・PTAの挨拶運動に生徒会や部活動が積極的に参加し、協同して朝の挨拶運動を展開する。			